

寺院に於けるシェア活動とは？

・そもそもシェア活動とは？

空間、モノ、移動手段、経済、技術などを“共有”という手段を用いてコミュニティを形成する活動です。

既に寺院にて宿坊、お供え物のおすそ分け、こども食堂などが行われていますが、これもシェア活動に含まれます。

空間の共有 シェアハウス レンタルルーム ロケーションレンタル 民泊など	モノの共有 個人では持て余すモノを 合意により数人で所有、使 用、管理する事。	移動手段の共有 カーシェアリング 車の相乗り 買い物代行など
経済の共有 クラウドファンディング ブロックチェーンなど	技術の共有 空き時間を活かし、趣味や スキルを社会に役立てる 活動。	寺院での現行の共有事業 宿坊 フードドライブ こども食堂など

・過去の寺院の役割とシェア活動の関係

寺院は元々檀信徒の寄付により建立された施設です。そこに迎えられた住職は地域に宗門の理念を伝え、地域住民の精神的、文化的支柱でありました。かつて寺院は教育や福祉、文化事業、戸籍管理までも担っており、その運営は現代に於ける自治体の方法より、寺院と住民を主体とした今回取り上げる「シェア(共有)」に近いものでした。しかし江戸時代から幕府が儒学や朱子学を奨励した事や、住職に妻帯が認められ寺院が住職の家庭となったためにこれまでの地域の社会の求心力は失われて現代に至ります。

現代社会は地域の地理的要因に基づく格差社会となっています。しかし格差があるという事が問題ではありません。その地域が住民の生活の最適解を見出せていないのが問題であり、これを解決するには自治体の活動のみならず地域住民の「合意形成」が必要です。その合意形成の場を寺院が担う事は歴史上に於いても前例があり、現代に於いて再びその役割が必要になったと考えられます。

目指すところは「寺院を利用した共有型社会」による既存の布教と新しいセーフティネットの融合ですが、生活様式が多様化した現代社会に適したモデルを構築する必要があります。

・寺院にシェアを取り入れる親和性とメリットは？

本堂や境内は地域の社会活動の有効なスペースである事

寺院が共有型社会の中心を担うことにより、檀信徒以外の人達との交流が増え、仏教に関心がない人にも寺院を訪れるきっかけが出来る。新しく移住してきた人には新規の檀家になる事も期待出来る。

檀信徒の世代交代や経済的理由、後継者不在により衰退する寺院の檀家経済にとってかわる寺院経営の手段となる。勿論既存の檀信徒との合意が必要であり、破綻しない限りは現行の檀家制は継続すべきである。

様々な年代の人々に共感される事業を導入する事により、寺院の事業に関わる人の極端な高齢化を防ぐ事が出来る。

御布施の理解が浸透する。どうして葬儀や法事の御布施は高いのか？と疑われるのは「御布施＝和尚の収入」となるとの偏見からである。元来御布施はファンディング(基金)であり、不特定多数の人に福利をもたらすために檀信徒から集めているものである。社会事業に積極的でオープンな寺院にする事により寺院経営の持続力が増し、多角的な布教活動が可能になる。

・今回のワークショップの目的

以前から弊会ではその場限りの聴講型の講座住職学ではなく、受講者同志がその後も繋がって継続的な事業に発展するような機会の提供を企画しておりました。

その初めての企画として石山アンジュ氏を迎えて、社会的に注目されている「シェア」について考え、これを上手く取り入れて寺院の活動と布教の促進に繋がる事を願っています。

ワークショップ後も寺院とシェア活動に於いての意見交換の場を設ける予定です。参加された方は任意ではございますが、今回のワークショップの内容を活かし、臨済宗寺院とその布教活動の更なる発展に繋がる事業として取り組みたい方のグループに是非ご参加くださいます様お願い致します。

・ワークショップ内容

講師石山アンジュ氏による「シェア」についての基調講演

講師と弊会局員による対談

講師、参加者を含めての意見交換会

寺院で行えるシェア活動のアイデアや、実現するために必要な事、問題点などについて会場全体でプレインストーミング風に話合いましょう。

開催概要

日時 2022年9月13日(火) 開始 13:30~16:30 終了

会場 東京都港区芝4丁目3-14 仏教伝道協会7階「見」

最寄駅 地下鉄都営三田線 三田駅 JR 山手線、京浜東北線 田町駅

参加費 無料

服装 自由(着替え場所はありません)

定員 20名程

※定員は申し込みの状況により多少配慮致します。奮ってご参加ください。

